

別紙 1 制御システム機能仕様書

1. (共通)

- (ア) 制御システムの不具合時に早急に復旧できる仕組みを構築し、提案すること。
- (イ) 操作席は、議場、第1委員会室に各1か所とする。なお、操作席に設置すべきものは以下の内訳のとおりとする。
 - ① 操作用タッチパネルディスプレイ：議場に2台、第1委員会室に1台
 - ② キーボード、マウス：議場に2組、第1委員会室に1組
- (ウ) 操作用タッチパネルディスプレイは21型程度とする。
- (エ) 第1委員会室においては、制御用のハードウェア、カメラ用のマルチビューワー、ビデオスイッチャー、制御機等、システムの安定運用に支障がない範囲において、議場と第1委員会室の機器を共用する構成を認める。なお、共用した機器が分かる資料を提出すること。

2. (マイク関連)

- (ア) 議長席・委員長席マイクは開会中は常時ONにできること。
- (イ) 4本以上のマイクを同時に利用できること。
- (ウ) タッチパネル操作で、卓上マイクの席ごとに音量を調整できること。
- (エ) 音声レベルの調整が運営中でも容易にできること。
- (オ) 座席ボタン選択中に変更した音量を記憶し座席ボタンごとにマイクの音量を保持できること。また演壇、発言席でもその発言者の音量設定値となること。
- (カ) タッチパネル上で、各装置の音量が設定できること。
- (キ) 発言者はマイクを手動でON/OFF操作ができるものとし、これらの操作は事務局操作席から制御でき、マイクの状態は視覚的に確認できることとする。なお、席ごとに発言者の手動によるON/OFF操作を制限する設定ができること。

3. (カメラ関連)

- (ア) テロップ挿入前の各カメラの映像、最終出力(オンエア)映像をタッチパネル上部に表示すること。
- (イ) カメラのパン・チルト・ズームの操作はタッチパネル上部内に表示された各カメラ映像上をタッチすることで容易に可能なこと。
- (ウ) カメラのアングルやプリセットを変更したい場合、タッチパネルからの操作によりソフトウェアの停止や再起動をすることなく、議会開会中であっても容易にプリセット登録の操作が可能であること。

- (エ) プリセットされた位置情報は、システムの電源を落としても消えないこと。
- (オ) タッチパネル画面は、全カメラ映像と配信中映像が画面内に同時に表示可能であること。

4. (テロップ関連)

- (ア) テロップ機能は、議員名・執行部役職名・一般質問項目・会議名・アナウンス文等を事前に登録でき、タッチパネル上での変更も可能であり、ローマ字入力、かな入力いずれの入力にも対応できること。また、外字表示に対応していること。
- (イ) テロップ表示内容は、事前登録を基本とし、会議中であっても運用を止めることなく登録・変更が可能であること。同様に、「休憩中」「再開時刻」等の文字情報もタッチパネル等より作成・表示が可能なこと。
- (ウ) テロップは上段と下段に分けて登録・表示できること。
- (エ) テロップは、1段当たり20文字程度表示ができ、2段表示ができること。合計40文字程度の表示が最低限可能であること。

5. (開会開始ブザー機能) ※議場のみ

- (ア) 開会時や休憩再開時など、タッチパネル操作によりブザー音を議場内に鳴動できること。

6. (録音・録画)

- (ア) 議場・委員会室のマイク音声を録音できるデジタルレコーダーを制御システム上でコントロールできること。(録音の開始、停止等をタッチパネルから制御できること)。また、必要に応じ、デジタルレコーダー本体の手動操作も可能であること。
- (イ) 議場中継映像を録画できるレコーダーを制御システム上でコントロールできること。(録画の開始、停止等を操作画面から行えること。)なお、制御システム上で、開会操作を行うと録画機の録画及び録音機の録音が自動で開始され、録画・録音が正常動作していることが確認できる機能を有していること。
- (ウ) 休憩中操作で録画録音の一時停止、閉会操作で録画・録音の停止がされること。また、これらの設定を変更でき、手動による操作も可能であること。

7. (休憩中コンテンツ) ※要望

- (ア) 開会前・休憩中・閉会后用に事前に用意した静止画、動画を送出し、カメラ映像との切り替えができることが望ましい。なお、その際にマイクの音声は送出されないこと。

8. (出席議員数表示)

- (ア) 出席議員数の入力、増減操作が可能なこと。

9. (質問残時間・発言残時間・質疑残時間) ※参考資料 1 を参照

【一般質問】

- (ア) 質問残時間と発言残時間を一括で減算開始することができ、各残時間ごとに減算の一時停止と開始の操作ができること。
- (イ) 質問残時間と発言残時間を同時に外部ディスプレイに表示ができること。
- (ウ) 質問残時間が終了した際には自動でブザーが鳴る機能を有すること。ただし、発言残時間が終了した場合は、ブザーは鳴らさないこと。

【総括質疑】

- (エ) 質疑残時間のみを外部ディスプレイに表示ができること。
- (オ) 質疑残時間が終了した際には自動でブザーが鳴る機能を有すること。

【共通】

- (カ) 各残時間の設定は個別設定と、任意のプリセット時間呼び出す方法が取れること。なお、秒単位の設定ができること。
- (キ) 外部ディスプレイに表示される残時間が1分を切った場合、分表示から秒表示に切り替わること。

10. (議場設置ディスプレイ表示) ※議場のみ ※参考資料 1 を参照

- (ア) 制御システム上から簡単な操作で、出席議員数、質問残時間・発言残時間・質疑残時間、カメラ映像、テロップ、資料映像、字幕表示画面等が個別または組み合わせて同時に外部ディスプレイ表示されること。
- (イ) ディスプレイごとに表示内容を選択できることとし、以下は必須とする。
- ① 出席議員数＋現在時刻
 - ② 質問残時間＋発言残時間＋現在時刻
 - ③ 質疑残時間＋現在時刻
 - ④ インフォメーション(お知らせ) 例：「休憩中」の文字表示
 - ⑤ 資料映像

11. (座席レイアウト、座席ボタン関連)

- (ア) タッチパネル画面は議場及び委員会室の座席レイアウトに沿って作成すること。
- (イ) 座席レイアウトは、会議種別(定例会、委員会、全員協議会など)や会議パターン(初日、一般質問日など)ごとに20パターン以上作成でき、保存可能であること。
- (ウ) あらかじめ用意していた座席レイアウト以外に必要な場合に追加、変更ができること。
- (エ) 議場にて全員協議会や委員会等を開催する場合において、座席レイアウトやテロップ表示変更が行えることが望ましい。(議員→委員表示など)

12. (マイク・カメラ・テロップ連携操作関連)

- (ア) 制御システムの操作は、タッチパネル方式を使用し、カメラ、テロップの操作等がボタン1つで連動、制御できる集中管理可能なシステムでありワンマンオペレーションによる議会運営が可能であること。またマウス、キーボードによる操作も可能であること。
- (イ) 座席のレイアウトに合わせてタッチパネルに配置された座席ボタンにタッチすることで、マイクの切り替え、カメラのプリセット位置への移動、登録しておいた発言者名等のテロップ表示が連動し行われること。
- (ウ) 個別操作をしたい場合に、手動でテロップ表示する等の設定に変更することで、任意のタイミングでテロップ表示が行えること。
- (エ) 発言席、演壇においては、発言者選択時に、選択中の状態であることが分かる仕組みとすること。

13. (進行リスト機能) ※要望

- (ア) 議事進行表に基づき、あらかじめマイク、カメラ、下段テロップ、上段テロップを登録しておき、一つの操作で登録された機能が自動で実行されること。
- (イ) 議事進行表とは異なる操作が発生した場合は、いつでも通常の座席レイアウトボタン操作も可能で、再びいつでも進行リスト機能に戻れること。

14. (議事進行記録機能) ※要望

- (ア) 時刻(時分秒)、経過時間、座席レイアウトボタン名(発言者名)、表示テロップ、採決結果(議題、出席議員数、賛成者数、反対者数)等の操作ログを記録した議事進行記録を保存できること。またCSV形式にて書き出し可能であること。なお、様式は発注者と協議の上、決定すること。

15. (映像・音声入出力設定)

- (ア) 議場各カメラ映像、休憩中コンテンツ、出席議員数、質問残時間・発言残時間・質疑残時間、電子採決、資料表示、オンライン会議、字幕等の表示、委員会室等のオンエア映像等を簡単な操作で選択または組み合わせて設置されたディスプレイに表示ができること。

16. (その他)

- (ア) 操作レイアウトなどの配置、録画録音のタイミング、各モニターの表示仕様等、運用に直接関係する箇所は受注側の画一的な仕様でなく、発注者・受注者の協議にて、より使いやすく運用実態に沿うよう柔軟にカスタム対応ができること。
- (イ) 保守契約締結した場合は、議会運営の変更などに伴い本番運用後も本市に意向の沿った制御システムの修正を速やかに行うこと。